



「ぶどう」の季節

夏から秋にかけて、スーパーや産直市場には、いろいろな「ぶどう」が並びます。

ぶどうは大きく分けて、「黒系」(巨峰など、味わい深い品種が多い)、「赤系」(デラウェアなど、酸味が少ない品種が多い)、「黄緑系」(シャインマスカットなど、さわやかな香りのものが多い)の種類があります。また、ワイン用としてメルロー、シャルドネなども有名ですね。

最近、大人気の「シャインマスカット」は、広島県にある「農業・食品産業技術総合研究機構」で育種された品種で、糖度は20度程度と非常に高く、種なしなので、皮ごと食べられることも人気の理由です。

続々と新品种が開発されているので、初めて聞く品種に出会うことも、お好みにあったぶどうを探してみるのも楽しいですね！



「Eco列車でいこう！」～第155回～ 鳥海山。はるかなる名峰に行く。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！)

鳥海山は山形、秋田県境に位置し、素晴らしい山容から「出羽富士」とも称される。

7月3日(日)。新潟市中央区を4:10に出発。日本海東北道と国道7号で山形県北端にある遊佐町へ。「鳥海ブルーライン」を約15キロ走り、秋田県に入るとすぐの「鉾立登山口」に到着した。

7:50入山。前半は石畳の歩きやすい登山道。2つの小さな雪渓を越える。3つ目の雪渓は広大だ。盛夏とは思えない豊富な残雪。振り返れば、日本海、男鹿半島が一望。

「長坂道」方面に回り込み、左に「新山」、右に「笙ガ岳」を望むポイントに出ると、お花畑となる。純白の「ハクサンイチゲ」が終わり、黄色がまぶしい「ニッコウキスゲ」の見ごろはもう少し先か。それでも、いろいろなお花が夏を待って咲き始めている。このお花畑までで引き返すのもいいだろう。「弥彦山」に登れる脚力があれば、圧倒的なスケールの鳥海山の一部を楽しむことができる。

「扇子森」のピークを越えると、なんともたおやかで広々とした光景だ。ただし、標高差50mを下って、50mを登り返すので楽ではない。「千蛇谷」に降りると大雪渓となる。遠くの方で、雪渓を延々と登っている人が豆粒のように見える。とにかくスケールが大きい山だ。

最後の頑張りどころは、高低差300mの急登。何度も立ち休憩を繰り返し、2160mの「御室小屋」に至る。ザックを置いて身軽になり、鳥海山最高峰「新山」のピークを目指した。厳しい岩稜帯。楽しく表現すると「岩のアスレチック」ともいえるが、4時間歩いてきたカラダにはキツイ。

約20分で登頂。帰りも延々と歩き、登山口に着いたのは17:20。累積標高差1400m。移動距離15.6キロ。活動時間9時間30分。大きな「充実感」と「疲労」を感じる夏山登山となった。



夏の花、チングルマに癒される



たおやかな山容を進む



「千蛇谷」の大雪渓